



# 試すっ子

学校教育目標「試す人になろう」 No.23

## プレゼントの意味

校長 中野 主税

令和6年も残すところ10日あまりとなってまいりました。今年も、保護者・地域の皆様の御支援、御協力に心から感謝申し上げます。

絵本作家・五味太郎さんの本の中に書いてあることです。五味さんは、クリスマスが近づいてきたので、5歳になる息子さんに「プレゼント、何がいいかな。」と尋ねたそうです。そうしたら、息子さんは次のように答えたそうです。

「あのさ、クリスマスって、僕の何。」

五味さんは、親として何かあればプレゼントをあげればよいと考えていた自分自身を反省し、商業主義に染められた年中行事の在り方を見つめなおさなくてはいけないと感じたそうです。消費することのみに振り回されるのではなく、行事や催しにどのような意味があるのか折々に話してやることも、子供たちが「世の中」を知るいい手掛かりになっていくのではないのでしょうか。

かなり前になりますが、映画として放映された「ALWAYS 3丁目の夕日」の第1作目の中にも、クリスマスにまつわるシーンがありました。主人公の茶川と同居する淳之介という少年に、万年筆がプレゼントされました。不幸な生い立ちに育った淳之介の喜ぶ笑顔が何ともいえませんでした。茶川に依頼されたサンタの格好をした医師が、役目を終えて居酒屋で「今日は楽しかった。」とつぶやく場面に心を打たれました。空襲で家族を亡くした医師にとって、誰かに夢を与えることこそ喜びだったのだと思います。それは、茶川にしても同じで、愛情を注ぐ喜びに目覚めた茶川がそこにいました。

考えてみれば、クリスマスであれ、正月であれ、「プレゼント」はもらえる方の喜びだけでなく、与える方の喜びがあって成り立つものであると改めて感じました。人は、こうした場を常に求めており、それがさまざまな活動を生み出し、経済にも大きな影響を与えているのではないのでしょうか。

ところが、現在の世の中では、物や金銭のやりとりばかりが拡大し、しかも形式化してしまい、肝心の心の部分が見えにくくなっているのではないのでしょうか。

英語のPresentには、「贈り物」の他に「心に残る」という意味もあるそうです。物や金ではなく、本当にわが子にとって心に残るものを、今年一年の間にプレゼントできたでしょうか。この時期だからこそ、このように振り返る時間をもてたらいいなあと思っています。些細なものであっても、子供の心に残るようなプレゼントが見つければ、それはきっと新しい年への希望へとつながっていくように思います。



## よいお年をお迎えください